



平成26年5月20日(火)

校長通心 No.25 校長 馬渡教二



彫ると綴ると(まきた しんじ)

彫る
 人間を彫る
 人間の 生きる姿を彫る
 人間の 喜びや悲しみや
 怒りや苦しみを彫る
 心のひだを彫る
 深く深く彫る
 あるがままに彫る
 自然を彫る
 自然の 生きる姿を彫る
 自然の 喜びや悲しみや
 怒りやなげきを彫る
 自然の心を彫る
 深く深く彫る
 心をこめて彫る
 彫る

綴る
 人間を綴る
 人間の 生きる姿を綴る
 人間の 喜びや悲しみや
 怒りや苦しみを綴る
 心のひだを綴る
 深く深く綴る
 あるがままに綴る
 自然を綴る
 自然の いのちを綴る
 自然の 喜びや悲しみや
 怒りやなげきを綴る
 自然の心を綴る
 あるがままに綴る
 心をこめて綴る
 綴る

「信任の総量(クレジット)」＝「集中力」＆「バランス感覚」

「クレジット」と聞くと、なんだかお金のにおいがしてくる。確かに「クレジットカード」は、現金を持ち歩かなくても現金を支払う代わりにデパートやコンビニでカードを見せればサインだけで支払いを済ませられるという便利なものである。これは、銀行の口座に毎月一定額の収入があることを信用して現金の代わりに使用できるものだけれど、アメリカでは、大学で取得する「単位」を「クレジット」と呼ぶんだそうだ。「単位＝クレジット」は、将来に向けての「経験値」であり、「他者からの信頼と共感を得ること」でもあり、「大人として必要な教養」でもある……つまり、勉強してとった単位が世間一般で通用する「信任」(相手を信用して仕事をまかせること)の証となるのだそうだ。つらい勉強をするのも、苦しい仕事をするのも「信任」を高めてより豊かな人生を切り拓くために必要だから頑張れるのだ、とアメリカ人は言っている。

つまり、「取得した単位」＝「クレジット」＝「信任の総量」ということであり、これはテレビゲームのロールプレイングゲームなどで積み上げていく「経験値」ととても似ているような気がする。新しい武器を手に入れるにも、敵を倒すにも「経験値」を積まないといけない。(秘密の言葉を賢者から聞き出したりして戦いながら、何層ものレベルをクリアし、姫を助けに行くみたいな…)中学生が学校で勉強するということは、自分自身という貯金通帳に、この「経験値」を増量し「信任」という通貨を貯めていくとわいていと思う。そうすることで、みんなを取り巻く人たちが様々な集団、学級・学年・学校全体からの「信任」が厚くなっていく。これは社会人になったら素晴らしい仕事がまわってくることと似ていて、人生の選択肢が増え新しいチャンスに恵まれていくから、自分の思い描いている夢が実現しやすくなっていくということである。

では、「クレジット」＝「信任の総量」を積み上げるのに何が必要なのか?…これがいつも言っている「文武両輪＆絆のシャフト」になる。今、中学生のみんなが身につけなければならないのは「集中力とバランス感覚」だと思う。「集中力」とは、意識が対象に真っ直ぐに向かっていて、気が散っていない状態である。大好きなことに没頭していると「時間がたつのを忘れてしまう」ということは誰にでも経験があると思う。この集中力は、「勉強すること」で一番鍛えられる。つまり『文の車輪』である。一方「バランス感覚」は、身体の各部分の動きの調和であるから、(転んだときケガしないように受け身ができるとか、どれぐらい血が流れたら病院へいった方がいいとか…)おもに「行事・部活」「集団生活」の中で鍛えられる感覚とわいていと思う。つまり『武の車輪』である。そして、その中でも、人間関係のバランスが最も大切で、どれぐらい言い過ぎると、この人は怒るのか?とか……仲の良い友達を他のグループにとられたときの悔しさや哀しさだとか……仲良しとそれ以外の距離感……笑って許される範囲とそれを超える領域……仲間はずれの寂しさと一致団結して何かを成し遂げたときの喜び…など、これらは、どんなに必死に勉強しても身につくものではなく、学校・学年・学級をはじめとした様々な集団生活の中で養っていくものである。つまり『絆のシャフト』である。(前々号でもふれたけれど…)だからみんなは、毎日毎日絆のシャフトを太くしながら、文武の両輪をバランスよく回転させることで「集中力」と「バランス感覚」という財産を少しずつ身につけると同時に「クレジット」＝「信任の総量」を蓄積してわいていと思うのだと思う。

もし、勉強するだけだったら、家でも塾でもできるけれど、人間はそもそも弱い存在だから一人で長い期間勉強を続けることが大変な人もいっぱいいると思う。ところが、集団だと「みんなもやっているから…」とやれてしまうことがよくあるし、集団で学んでいると、多種多様な考え方にふれることができ、同じ事象が起こっても(同じ問題を解いても)自分とは違う対応をする人(自分とは違う答えを導き出す人)に出会えるのである。おまけに、どうしてそう考えたのか?というコミュニケーションだって鍛えられる。つまり、「みんな一緒」に同じ体験をしても「一人一人」の受け止め方は違うんだ。ということにいろんな場面で気づかされるのである。そういう意味で中学校で学ばなければならないのは、そういういろんな考え方を持った人たちの良さをわかり、その良さに自分が支えられていることに気づくと同時に、自分の良さが周りの支えになり、個人も集団も成長していくのだということを実感していくことではないだろうか?

さて、テスト週間に突入した。文の車輪をフル回転させ、集中力という財産を身につける絶好のチャンスを最大限に生かしていこう!!

